

猪股修二氏の重力実験

渡辺 満（静岡県）

§ 1 猪股修二氏の実験

もう10年以上前になるが、
工学博士の猪股修二さんに、1度お会いしたことがある。
その当時、彼は日本意識工学会(JPI)の会長を務めていた。
その席で彼から、ホチキスで閉じた10ページ程の資料をいただいた。

僕は、それをしばらく本棚にしまったままにしていたが、
最近になって、内容が気になりだし、詳しく読んでみた。
するとこれは、僕の時空理論と深く関係することがわかった。
これが事実なら、僕の時空理論の実験的裏付けとなる。

それをこの下に、そっくりコピーした。

猪股修二さんに、会ったのは一回だけだが、電話では何回かお話した。
彼は信頼でき、尊敬できる人物だと感じた。
とにかく誠実な人なのだ。
彼の書いた本「ニューサイエンスのパラダイム」も少し読ましてもらったが、
わるいが、これは好きになれなかった。(御免)

----- 以下コピー -----

§ 1 JPI NEWS No.20 , 1991(H3)-12-14 発行

* 猪股会長 コイルで重力渦発生に成功

筑波電総研の猪股研究室で、コイルを用いて重力を変化させることに成功した。

1. 実験

1) 0.06mmφの導線を、25万回巻いたコイル(東京.大岡山.山王電気製)に、
300V の直流電流をつなぎ、コイルと並列に 150KΩの抵抗を入れた回路で、実験

を構成。

2) つまようじのような非磁性体を、糸で吊り下げる。

3) 回路に電流を流すと、糸が振れる。

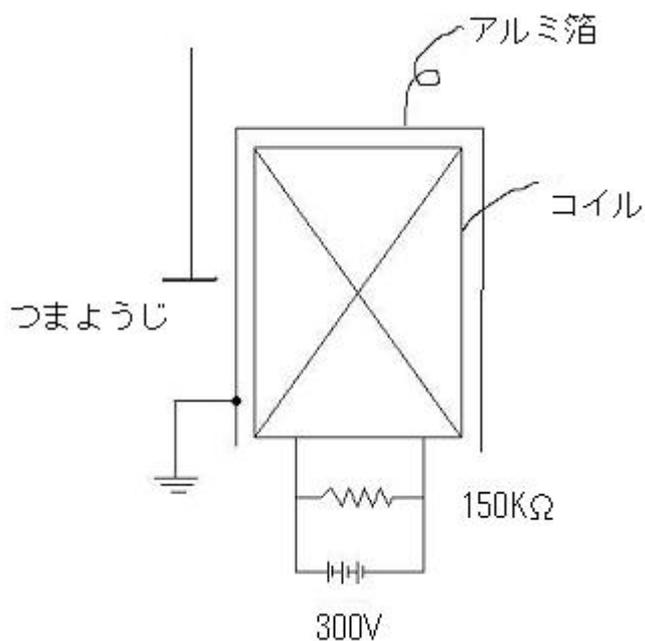
通常の物理的常識では、そのようなことはあり得ない。

ただ、コイルにわずかに発生した静電気による可能性がありそうだ。そこで、

4) コイルをアルミ箔で覆いアースしてみる。

つまようじの糸が傾く。

よって、これは静電気によるものではなく、重力によるものと考えられる。



2. 実験結果に対する猪股会長の評価所見では、

「ファラデーが電磁誘導の法則を発見したときに用いたコイルは、

巻数が少なかったので、重力の渦の現象を発見できなかったのではないかと述べている。

----- 以上 -----

これについて、何人かの人に意見を聞いてみると、
「この実験では、コイルの外側に、かなり強い磁場が発生する。
もし、ツマヨウジの中に、わずかにでも鉄が含まれていれば、
それが磁場に反応する。」
また、「反磁性によるものではないか？」
という声もあった。
(反磁性とは、磁場をかけたとき、物質が磁場の逆向きに磁化される性質のことで、
弱い、あらゆる物質に反磁性はあるらしい。)

さて、時空理論の立場から言えば、
ベクトルポテンシャルはニュートンの重力ベクトルになるので、
上記の実験結果は肯定される。
この場合、ベクトルポテンシャルはコイルと同心円状に、コイルの巻き線と平行に、
コイルの外側に発生する。
コイルに電流を流すと、コイルの回りには、このベクトルポテンシャルによる重力場が
発生し、ツマヨウジを揺らすというわけだ。

2011年9月 Ver1.0 発行
著者:渡辺 満 , 発行者:渡辺 満
Copyright 渡辺 満 2011年